

館長だより 4月号(2019/4)

いよいよ2019年度の始まりです。ただし今月はまだ平成年号のままで新しい年号にはなっていませんが、すでに世間では新年号になったかの印象があります。

風土記の丘では春期企画展として『縄文・弥生の「海の道」と「陸の道」—紀伊半島と東西交流—』が、去る平成31年3月23日(土)から来る5月12日(日)の予定で開催中です。

紀伊半島の西側に位置する和歌山県は、その地理的環境から、縄文時代以来海路や陸路を通じて人々や文物が頻繁に行き交ってきました。県内の縄文時代、あるいは弥生時代の遺跡からは、こうした人々の交流を示す様々な遺物が出土しています。とりわけ瀬戸内、近畿、東海、関東、東北地方各地の特徴を持つ土器や北陸地方の石器や玉類などは、紀伊半島と各地との地域間交流の歴史を物語ります。

例えば縄文時代では、かつらぎ町船岡山遺跡から北陸糸魚川産の翡翠製大珠が、串本町大水崎遺跡からは在地系、関東系、東海系の土器が、みなべ町徳蔵地区遺跡からは、在地系、関東系の土器と二上山産、金山産のサヌカイト製石器がそれぞれ出土しています。これらは、交流する縄文人の姿をほうふつとさせるものです。

弥生時代では、御坊市堅田遺跡から、遠賀川系や突帯文系のほかに東海系、瀬戸内系の土器が、みなべ町徳蔵地区遺跡からは遠賀川系、突帯文系、東日本系の土器が、田辺市八丁田圃遺跡からは在地系、東海系の土器がそれぞれ出土しており、弥生時代の紀中・紀南とそれぞれの地域が海の道を介してつながっていたことがわかります。

このように本展示では、紀伊半島における縄文・弥生時代の交流史を考えるため、和歌山県内から出土した考古資料を通じて、人々の行き交った「海の道」「陸の道」を辿ります。

主たる展示品は、これらの交流を物語る縄文・弥生土器、玉類、石器などとともに、鹿の描かれた絵画土器(かつらぎ町西飯降Ⅱ遺跡出土)、銅鐸(和歌山市有本出土・みなべ町晩稲出土)、木製品(すさみ町立野遺跡・県指定文化財)などを紹介しています。このほか、関連展示としてハンズオン展示「縄文土器に文様をつけよう」、「本物の縄文土器にさわろう」なども企画しました。4月14日(日)13時30分から15時の予定で展示講座も催します。

また4・5月はさまざまなイベントが開催されます。まず、県指定文化財(有形民俗文化財)の和船の展示施設が、4月21日にオープンします。これは、従来野外展示していました地引網漁に伴う和船の保存のために、新たに覆屋を建設したものです。展示施設では、この和船のほかに、県指定文化財・日高地域の地引網漁用具の展示も行われます。オープンの日には、学芸員による民家ガイドも行われます。

また、4月20日(土)にはカラー勾玉づくりが、4月27日(土)には古墳ガイドツアーが、5月11日(土)からはボランティア養成講座が開催されます。

毎年恒例のゴールデンウィークのモノづくり体験は、4月28日(日)～30日(火・

休) (ハニワづくり)、5月3日(金・祝)～6日(月・休)(勾玉づくり)の日程で開催されます。さらに、第10回 HANI-1 選手権が5月12日(日)から始まります。これらのほかにも講座が開催されますので、それぞれの詳細はホームページでご確認ください。

ぜひこの機会に風土記の丘を訪問いただき、春のひとときに博物館で有意義な時間を過ごされませんか?お待ちしております。